

## 積み木の寄贈を受けました



県立氷上特別支援学校（足立恵宣校長）から、たくさんの積み木の寄贈を受けました。

いろいろな形の積み木があり、触ってみると木のぬくもりが感じられます。

どこまで高く積めるか、2つ同じ形がつくれるか、創意と工夫によっていろんな遊び方が楽しめます。

春日庁舎1階の子どもスペースに設置していますので、来庁の際はぜひお立ち寄りください。



手づくりでつくられた積み木。木のやさらかさ、ぬくもりを肌で感じてください。

## 市政情報

### 「ええなあ！丹波市民リポーター」を募集！



見つけた！まちのとおき情報

地域のイベントや伝統行事、身近にある何気ない日常の風景など、まちの魅力を取材し、丹波市に記事を提供いただく市民ボランティア「ええなあ！丹波市民リポーター」を募集しています。

■募集人数 / 7人

※定員になり次第、募集締切

■募集期間 / 3月10日（火）まで

■応募条件 / 市内在住・在勤・在学で、デジタルカメラを所有している18歳以上の方

■応募方法 / 市役所市民課、各支所に設置の応募用紙に必要事項を記入のうえ、総合政策課まで提出。様式は市ホームページでダウンロード可。

記事は「市民リポーターブログ」と「フェイスブックページ」に掲載されます



市民リポーターブログ



フェイスブックページ

☎ 総合政策課（氷上庁舎内） ☎ 82 - 0916

### 2015年は国勢調査の実施年！登録統計調査員を募集



国勢調査をはじめ、各種統計調査の調査員として従事していただける登録統計調査員を随時募集しています。

登録統計調査員とは……

◆市に登録された統計調査員で、随時行われる統計調査に従事していただけます。

◆統計調査員に任命されると、公務員（非常勤）として調査活動（概ね2カ月程度）を行い、その対価として報酬が支払われます。

■募集対象（次の①～④のいずれにも該当）

①市内在住の20歳以上の方

②調査で知り得た秘密を守れる方

③警察・選挙・税務事務に従事していない方

④暴力団員および暴力団員と密接な関係のない方

■申込方法

市役所市民課・各支所に設置の申込用紙等に必要事項を記入のうえ、総合政策課へ提出。

☎ 総合政策課（氷上庁舎内） ☎ 82 - 0916

統計調査員として活躍しませんか

### NPO法人「丹波グリーンパートナー」が設立されました

「地域住民などが伐採した木を買い取って薪や材木、木工品として生産し、地域で販売」、そんな資源循環型の仕組みを事業化するNPO法人「丹波グリーンパートナー」（能口秀一理事長）の設立総会が、12月16日、氷上住民センターで行われました。

8月の豪雨災害によって甚大な被害を受けた市島町前山地区。ここをモデル地域に、資源循環型の産業育成や地域づくりの促進、さらには、災害に強い森林を復活させようと、今年4月から本格的に事業がはじまります。

#### NPO法人丹波グリーンパートナー設立総会



丹波グリーンパートナー役員のみなさん。左から婦木克則さん、能口秀一さん、宮川五十雄さん。

「自然との共生」、その再生に向けて



## 「鉄道のお得で便利な乗り方」講座 Vol.3

【たんば鉄道の日】編

◆駅前の丹波市営駐車場が1日無料に！

毎月22日は、「たんば鉄道の日」。駅前の丹波市営駐車場（一時預り区画）が、この日は「1日無料」でご利用いただけます。

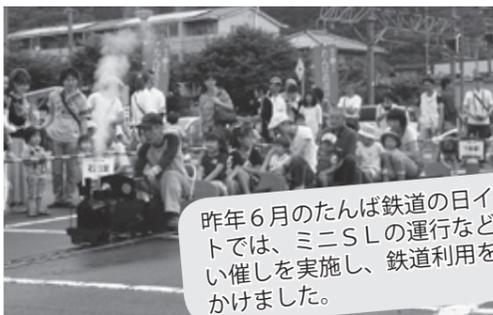
2月22日、3月22日はともに日曜日。この機会に鉄道でお出かけしてみませんか。

<次回は5月20日号で「てくてくたんば」について掲載予定>

☎ 都市住宅課（春日庁舎内） ☎ 74 - 2364

### 「たんば鉄道の日」って？

「たんば鉄道イベント実行委員会」では、「JR福知山線のマイレールウェイ意識を醸成し、より多くの方に鉄道を利用してもらおうと、毎月22日を「たんば鉄道の日」と定めています。



昨年6月のたんば鉄道の日イベントでは、ミニSLの運行など楽しい催しを実施し、鉄道利用を呼びかけました。

### つるを使って自分だけのオリジナル花かごづくり

2月8日、青垣いきものふれあいの里で、「つるのかご作り講習会」が開かれ、友の会花かごサークルの指導のもと、参加者たちは、葛のつるを使って器用に花かごを編みました。



皿や筒、かごなど、思い思いのかたちを選んで花かごを編み上げた参加者たち。自分だけのオリジナルの完成です。



「新井小」同窓生と児童の絆が生んだ稲実文庫

昭和33年からの5年間、新井小学校に赴任した故稲実道代先生から、昭和35年卒業生の同窓会に贈られた資金をもとに、昨年創設された稲実文庫。

2月2日、今年も昭和35年卒の同窓生（東京在住）と文庫の創設に尽力した昭和38年卒業生の有志のみなさんが、稲実文庫に図書40冊を寄贈。生徒を代表して石塚美羽さん（小6）が、「たくさんの本を読んで心を豊かにしたい」と話しました。